

## 評価を変更した項目、課題とする項目、評価に当たっての意見がある項目(公立大学法人静岡文化芸術大学 令和3事業年度評価)

## 評価を変更した項目(3項目)

No.	中期計画	年度計画	R3実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																																																								
8	・文化政策研究科においては、社会人向け専門講座の実施等により、多様な人材を確保する。	・「共同プロジェクト実践演習」の運用を踏まえ、社会人受け入れについて改善すべき点を把握する。	・「共同プロジェクト実践演習」について、コロナ禍ではあったが、3つのプログラムの運用を継続し、社会人受入れの課題等を把握した。	B (B)	C (B)	<p>文化政策研究科の入学人数が更に減少したため、訴求力ある情報発信や教育の内容及び体制の改善などを速やかに行われたい。併せて、入学人数が定員を上回っているデザイン研究科の適正な定員管理も含め、両研究科の抜本的な見直しを加速させる必要がある。</p> <p>○大学院入学人数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研究科 (入学定員)</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>第2期計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化政策 入学者 (10)</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td>50.0%</td> <td>50.0%</td> <td>50.0%</td> <td>60.0%</td> <td>70.0%</td> <td>40.0%</td> <td>53.3%</td> </tr> <tr> <td>デザイン 入学者 (10)</td> <td>10</td> <td>15</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td>100.0%</td> <td>150.0%</td> <td>130.0%</td> <td>140.0%</td> <td>120.0%</td> <td>120.0%</td> <td>126.7%</td> </tr> <tr> <td>計 入学者 (20)</td> <td>15</td> <td>20</td> <td>18</td> <td>20</td> <td>19</td> <td>16</td> <td>108</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td>75.0%</td> <td>100.0%</td> <td>90.0%</td> <td>100.0%</td> <td>95.0%</td> <td>80.0%</td> <td>90.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○両研究科の改革に向けた取組 「共同プロジェクト実践演習」において3つのプログラムを実施 (1) コーヒーの廃棄物を活用した新たなフェアトレード商品開発に関わる実践的研究 (2) 「病院のアート(ホスピタル・アート)」をめぐる関係性のデザインの研究 (3) 遠州地域(三遠南信地域)の地域構造変化にみる今日の課題</p>	研究科 (入学定員)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	第2期計	文化政策 入学者 (10)	5	5	5	6	7	4	32	充足率	50.0%	50.0%	50.0%	60.0%	70.0%	40.0%	53.3%	デザイン 入学者 (10)	10	15	13	14	12	12	76	充足率	100.0%	150.0%	130.0%	140.0%	120.0%	120.0%	126.7%	計 入学者 (20)	15	20	18	20	19	16	108	充足率	75.0%	100.0%	90.0%	100.0%	95.0%	80.0%	90.0%
研究科 (入学定員)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	第2期計																																																							
文化政策 入学者 (10)	5	5	5	6	7	4	32																																																							
充足率	50.0%	50.0%	50.0%	60.0%	70.0%	40.0%	53.3%																																																							
デザイン 入学者 (10)	10	15	13	14	12	12	76																																																							
充足率	100.0%	150.0%	130.0%	140.0%	120.0%	120.0%	126.7%																																																							
計 入学者 (20)	15	20	18	20	19	16	108																																																							
充足率	75.0%	100.0%	90.0%	100.0%	95.0%	80.0%	90.0%																																																							

No.	中期計画	年度計画	R3実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																																																																
93	<p>・交換、交流留学先を拡充し、平成33年度において、下記の数値を目標とする。 交流協定締結校数 20校 海外派遣学生数（語学研修含む）60人（年）</p>	<p>・国際交流拡大を支える学内の体制整備に取り組む。 ・新規海外協定校を開拓する。 ・教員の研究成果を英文で情報発信する。 ・インターネットを利用して、協定校の学生との交流の場を設ける。</p>	<p>・グローバル化構想検討専門部会にて国際交流拡大を支える学内の体制整備について議論し、新体制案を作成した。 ・英文Webサイトで教員の研究成果を英文で掲載した。 ・ポーランド大学（ドイツ）、サンパウロ大学（ブラジル）、ワルシャワ美術アカデミー（ポーランド）の3校と海外交流協定を締結した。 ・アイルランガ大学で公開セミナー「日本の社会と文化の中の外国人」を実施した。 ・アイルランガ大学との国際共同オンライン学習（COIL）を実施した。 ・イズミル経済大学、ワルシャワ美術アカデミーとオンラインで産学共同国際デザインワークショップを行った。</p>	B (B)	A (B)	<p>海外との往来が困難な状況で、新たに3校の海外大学と交流協定を締結した。トルコ及びポーランドの大学とのオンラインによる産学協同国際デザインワークショップ、インドネシアの大学との国際共同オンライン学習（COIL）や学生の調査の相互協力、ブラジルのジャパンハウスと共同したオンライン海外インターンシップ等、コロナ禍において実体のあるグローバル教育を積極的に実現した。</p> <p>○産学協同国際デザインワークショップ ・イズミル経済大学（トルコ）、ワルシャワ美術アカデミー（ポーランド）とオンラインにより実施</p> <p>○国際共同オンライン学習（GOIL） ・テーマ：「Design Proposal for Indonesian Food Culture」 ※コロナ禍により交換留学生の受入れが中止となったため、アイルランガ大学（インドネシア）の協力を得て、ZOOMやLINE等オンラインにより聞き取り調査を実施（調査後も、追加調査を実施する等、交流が継続）</p>																																																																
137	<p>・学生、教職員等が個人として尊重され、人権を侵害されることのないよう、ハラスメント防止等の教職員、学生向けの研修会を開催するとともに、各種の情報提供を行う。</p>	<p>・教職員を対象としたハラスメント研修を実施し、ハラスメント防止意識の徹底を図る。 ・ハラスメント相談窓口担当者を対象とした研修会を実施し、担当者のスキルアップを図る。 ・教職員を対象にハラスメントに関するアンケートを実施し、ハラスメントの実態把握および防止対策の参考とする。 ・学生を対象としたハラスメント研修を実施し、分かりやすい情報をきちんと伝えることで、学生のハラスメントに関する知識・理解を深める。 ・学生を対象にハラスメントに関するアンケートを実施し、ハラスメントの実態把握および防止対策の参考とする。 ・学生便覧に「ハラスメント防止」のページを設け、相談の流れや相談窓口等の周知を図る。 ・リーフレット等の配布・配架により相談窓口を周知する。</p>	<p>・ハラスメント事案1件について、ハラスメント調査委員会を立ち上げ、事実関係の調査と厳正な対処を行った。 ・学生及び教職員を対象としたWebアンケートにより、ハラスメント被害やハラスメントの認知の状況等を調査した。 ・学生を対象とした、ハラスメント被害防止のための啓発ビデオを制作し、教職員向けにビデオによるハラスメント研修を行った。 ・学生ガイダンス資料と併せてハラスメント防止に係るリーフレットを郵送し、学生の意識啓発を行った。 ・相談窓口を周知する名刺大のカードを作成し、学生ホールなど学内各所に配架した。</p>	B (B)	C (B)	<p>ハラスメントの再発防止に向け、学生及び教職員を対象としたWebアンケートの実施や意識啓発等に取り組む一方で、懲戒処分に至るハラスメント事案の発生や、研修の受講率の継続的な低下など、学内全体の危機感の希薄化が見受けられる。誰一人取り残さない社会の担い手を育成する教育機関において、教職員一人一人が常に緊張感を持って、ハラスメントの防止を徹底されたい。</p> <p>○教職員を対象としたハラスメント研修【オンデマンド可】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>第2期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象者（人）</td> <td>172</td> <td>168</td> <td>169</td> <td>173</td> <td>173</td> <td>178</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>参加者（人）</td> <td>166</td> <td>158</td> <td>163</td> <td>162</td> <td>156</td> <td>153</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>受講率</td> <td>96.5%</td> <td>94.0%</td> <td>96.4%</td> <td>93.6%</td> <td>90.2%</td> <td>86.0%</td> <td>92.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○相談員等対象ハラスメント研修会</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>第2期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象者（人）</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>33</td> <td>33</td> <td>17</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>参加者（人）</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>33</td> <td>26</td> <td>17</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>受講率</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>100.0%</td> <td>78.8%</td> <td>100.0%</td> <td>-</td> <td>92.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※R2は新規相談員が対象</p>	項目	H28	H29	H30	R1	R2	R3	第2期	対象者（人）	172	168	169	173	173	178	-	参加者（人）	166	158	163	162	156	153	-	受講率	96.5%	94.0%	96.4%	93.6%	90.2%	86.0%	92.8%	項目	H28	H29	H30	R1	R2	R3	第2期	対象者（人）	-	-	33	33	17	-	-	参加者（人）	-	-	33	26	17	-	-	受講率	-	-	100.0%	78.8%	100.0%	-	92.9%
項目	H28	H29	H30	R1	R2	R3	第2期																																																															
対象者（人）	172	168	169	173	173	178	-																																																															
参加者（人）	166	158	163	162	156	153	-																																																															
受講率	96.5%	94.0%	96.4%	93.6%	90.2%	86.0%	92.8%																																																															
項目	H28	H29	H30	R1	R2	R3	第2期																																																															
対象者（人）	-	-	33	33	17	-	-																																																															
参加者（人）	-	-	33	26	17	-	-																																																															
受講率	-	-	100.0%	78.8%	100.0%	-	92.9%																																																															

課題とする項目、評価に当たっての意見がある項目(8項目)

No	中期計画	年度計画	R3実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																
16-2	<p>・地球規模で人類の営みをたどる文明史の観点から観光を捉え、観光産業と芸術文化活動を融合できる能力を持った人材を育成するカリキュラムを編成する。 (平成30年3月29日付け県中期計画変更認可)</p>	<p>[文化政策学部] ・文明観光学コースの3年次を開始する。文化政策学部の3学科と連携体制をとり、専門教育としてのゼミを開講する。</p>	<p>[文化政策学部] ・文化政策学部3学科の学生から構成される文明観光学コースのゼミを人数調整をした上で、予定通り開講した。</p>	B (B)	B (B)	<p>開講3年目を迎えた文明観光学コース及び匠領域において、3年次の演習やゼミを予定どおり実施し、地域と連携した教育活動を展開した。令和4年度末には初めて卒業生を輩出することから、教育課程の運用状況を検証して更なる向上につなげるとともに、広く成果を発信されたい。</p> <p>○文明観光学コースの主な成果 ・3年次の演習を開講し、ゼミ生の調査・研究の指導を実施 ○匠領域の主な成果 ・3年次の演習を開講し、金属工芸、木材加工、染織、伝統建築等の専門性を学び、作品の制作、公開講座、共同研究等を実施</p>																
16-3	<p>・伝統建築・伝統工芸において受け継がれてきた知識や技能を理解し、現代にふさわしい空間や上芸物を提案できる人材を育成するカリキュラムを編成する。 (平成30年3月29日付け県中期計画変更認可)</p>	<p>[デザイン学部] ・「匠領域」の科目群を加えたカリキュラム計画に従い、3年目の開講となる専門科目を実施し、過去2年間の状況を検証し、必要に応じて改善を行う。</p>	<p>[デザイン学部] ・デザイン学部改編ワーキンググループを中心に過去3年間の状況を検証し、匠領域の教育研究が順調に機能していることから、現状の内容で次年度も継続することを確認した。</p>	B (B)	B (B)	<p>○R4前期文明観光学コース及び匠領域の在籍者数</p> <table border="1" data-bbox="1444 638 2038 790"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>3年生</th> <th>4年生</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文明観光学コース</td> <td>9</td> <td>19</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>匠領域</td> <td>14</td> <td>16</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>23</td> <td>35</td> <td>58</td> </tr> </tbody> </table>	項目	3年生	4年生	計	文明観光学コース	9	19	28	匠領域	14	16	30	合計	23	35	58
項目	3年生	4年生	計																			
文明観光学コース	9	19	28																			
匠領域	14	16	30																			
合計	23	35	58																			
36	<p>・学生の主体的・能動的な学習の強化を目指したFD活動の展開など、FD活動を充実・強化する。</p>	<p>・授業アンケートを継続して行い、回答率の向上を図る。 ・令和2年度に実施した遠隔授業に関するアンケート調査の結果を共有し、コロナ禍での遠隔授業時の学習強化を図る。</p>	<p>・授業アンケートを継続して行い、回答率の向上を図った。 ・令和2年度に実施した遠隔授業に関するアンケート調査の結果を共有し、コロナ禍での遠隔授業時の学習強化を図った。</p>	B (B)	B (B)	<p>継続的な授業アンケートに加え、適時に行う複数のアンケート調査や常設の意見収集フォームにより、学生が抱えている課題の把握に努めている。学生の意見を反映した具体的な改善策の実施などアンケートや調査の回答率の向上に向けた好循環を創出されたい。</p> <p>○学生生活実態調査(3年に1度) 回答率 H28(紙) 66.0% R1(Web) 34.4% R2(Web) 52.2% ※臨時調査 R3(Web) 51.5% ※臨時調査</p>																
49	<p>・学生生活実態調査を継続し、学生の心身両面における健康と生活上の諸問題を把握し、改善する。</p>	<p>・過年度の学生生活実態調査の結果をもとに、学生の抱えている諸課題について、改善を図る。加えて、喫緊の課題が生じた場合には臨時的な調査をLMSなどを使って実施する。</p>	<p>・コロナ禍及びハラスメントについて、臨時的な学生生活調査を行い、結果を学生支援とハラスメント防止策の参考にするとともに大学Webサイトに掲載した。</p>	B (B)	B (B)	<p>○授業アンケート回答率 H29(紙) 前期83.7%、後期79.7% H30(Web) 前期75.9%、後期69.7% R1(Web) 前期68.7%、後期62.9% R2(Web) 前期68.5%、後期56.1% R3(Web) 前期67.9%、後期56.1%</p> <p>○回答率向上に向けた取組 ・学生会及び教員による回答の呼び掛け ・学生ラウンジ、食堂、講義室の各席へのフライヤーの掲示 ・回答者に贈呈する謝礼(抽選制)の当選本数の増加</p>																

No	中期計画	年度計画	R3実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																																								
70	<p>・科学研究費補助金等の競争的外部研究資金に係る、応募及び獲得件数増加に向けた研究支援体制を充実させる。</p>	<p>・科学研究費補助金等の競争的外部研究資金獲得に向け、教員の意識向上及び支援体制の充実を図る。</p>	<p>・科学研究費補助金等の競争的外部資金獲得を支援するため、外部講師による個別相談、研究計画調書作成ポイントを解説した動画の配信、採択された研究計画調書閲覧等の支援を行った。</p> <p>・研究助成財団等の公募情報を定期的に大学Webサイトに掲載するとともに、募集分野に関連する教員に対し個別に情報提供を行った。</p> <p>・教員特別研究にて、科学研究費補助金等の外部資金申請につながる研究であることを条件にした研究区分を設け募集を行った。</p>	B (B)	B (B)	<p>科学研究費補助金への応募は、外部資金獲得による自己収入の増加のためだけではなく、組織全体の研究力向上の観点からも、応募する教員の割合を増やすよう一層取り組まれない。</p> <p>○科研費申請採択状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>代表課題応募件数(件)</td> <td>11</td> <td>18</td> <td>21</td> <td>19</td> <td>25</td> <td>14</td> <td>108</td> </tr> <tr> <td>新規採択件数(件)</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>新規採択率(%)</td> <td>27.3</td> <td>27.8</td> <td>38.1</td> <td>42.1</td> <td>24.0</td> <td>28.5</td> <td>31.3</td> </tr> <tr> <td>全国新規採択率(%)</td> <td>26.4</td> <td>25.0</td> <td>24.9</td> <td>28.4</td> <td>27.4</td> <td>27.9</td> <td>26.7</td> </tr> </tbody> </table>	項目	H28	H29	H30	R1	R2	R3	計	代表課題応募件数(件)	11	18	21	19	25	14	108	新規採択件数(件)	3	5	8	8	6	4	34	新規採択率(%)	27.3	27.8	38.1	42.1	24.0	28.5	31.3	全国新規採択率(%)	26.4	25.0	24.9	28.4	27.4	27.9	26.7
項目	H28	H29	H30	R1	R2	R3	計																																							
代表課題応募件数(件)	11	18	21	19	25	14	108																																							
新規採択件数(件)	3	5	8	8	6	4	34																																							
新規採択率(%)	27.3	27.8	38.1	42.1	24.0	28.5	31.3																																							
全国新規採択率(%)	26.4	25.0	24.9	28.4	27.4	27.9	26.7																																							
71	<p>・外部研究資金獲得件数について、中期目標期間6年間の新規獲得件数の総数が、平成22年度から平成27年度までの6年間の総数に比して20%の増加を目指す。</p>	<p>・科学研究費補助金等の外部研究資金獲得に向け、教員の申請率向上を図る。</p>	<p>・令和3年度の科学研究費補助金は4件が新規に採択された。また、令和4年度の科学研究費補助金には21件の申請があり、昨年度より教員の申請率が向上した。</p>	B (B)	B (B)	<p>※中期計画の数値目標:新規採択件数6年間で約28件(R2で達成) 年度計画の数値目標:新規採択件数5件以上</p> <p>○科研費申請率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4※</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>申請率(%)</td> <td>15.5</td> <td>24.0</td> <td>27.3</td> <td>25.0</td> <td>33.3</td> <td>17.4</td> <td>25.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>※R4:4月1日現在</p> <p>○外部資金(科研費、研究奨励寄付金、受託事業等)受入状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数(件)</td> <td>67</td> <td>66</td> <td>67</td> <td>75</td> <td>74</td> <td>64</td> <td>413</td> </tr> <tr> <td>金額(千円)</td> <td>53,502</td> <td>65,333</td> <td>46,404</td> <td>56,603</td> <td>47,704</td> <td>36,538</td> <td>306,084</td> </tr> </tbody> </table>	項目	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4※	申請率(%)	15.5	24.0	27.3	25.0	33.3	17.4	25.6	項目	H28	H29	H30	R1	R2	R3	計	件数(件)	67	66	67	75	74	64	413	金額(千円)	53,502	65,333	46,404	56,603	47,704	36,538	306,084
項目	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4※																																							
申請率(%)	15.5	24.0	27.3	25.0	33.3	17.4	25.6																																							
項目	H28	H29	H30	R1	R2	R3	計																																							
件数(件)	67	66	67	75	74	64	413																																							
金額(千円)	53,502	65,333	46,404	56,603	47,704	36,538	306,084																																							

No	中期計画	年度計画	R3実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																																																								
84	・地域の多文化共生を推進する拠点として、本学を機能させる具体策を検討し、可能なものから実施する。	・前期中に必要な準備を進め、後期開始時に多文化・多言語教育研究センターを開設する。	・多文化・多言語教育研究センター開設に向けて基本方針、規程等を整備した。	B (B)	B (B)	多文化・多言語研究センターが中心となって、地域の特長を活用した多文化共生を推進するとともに、語学教育にとどまらないグローバル教育を学内外で展開することを期待する。																																																								
113	・科学研究費補助金等の外部研究資金、共同研究・受託事業等の拡大による自己収入の獲得を推進する。	・科学研究費補助金、研究助成財団等の外部研究資金獲得に向けた支援を引き続き行い、自己収入の増加を図る。 ・静岡文化芸術大学基金の積極的な募集を行う。	・科学研究費補助金等の競争的外部資金獲得を支援するため、外部講師による個別相談、研究計画調書作成ポイントを解説した動画の配信、採択された研究計画調書閲覧等の支援を行った。 ・研究助成財団等の公募情報を定期的に大学Webサイトへ掲載するとともに、募集分野に関連する教員に対し個別に情報提供を行った。(再掲) ・ホームページに寄附者名簿を掲載した。 ・寄附に関するパンフレットを後援会、同窓会、入学予定者の保護者等に配布し寄附金を募集した。	B (B)	B (B)	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で停滞している共同研究・受託事業等の外部資金の獲得件数等を再び増加させ、また、寄付金の安定的な受入を推進するため、組織的な取組の更なる強化を期待する。</p> <p>※再掲【No.71】</p> <p>○外部資金(科研費、研究奨励寄付金、受託事業等)受入れ状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数(件)</td> <td>67</td> <td>66</td> <td>67</td> <td>75</td> <td>74</td> <td>64</td> <td>413</td> </tr> <tr> <td>金額(千円)</td> <td>53,502</td> <td>65,333</td> <td>46,404</td> <td>56,603</td> <td>47,704</td> <td>36,538</td> <td>306,084</td> </tr> </tbody> </table> <p>○基金への寄附実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>修学支援(千円)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2,487</td> <td>1,238</td> <td>2,200</td> <td>1,207</td> <td>7,132</td> </tr> <tr> <td>教育研究支援(千円)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1,300</td> <td>1,076</td> <td>312</td> <td>529</td> <td>3,217</td> </tr> <tr> <td>計(千円)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>3,787</td> <td>2,314</td> <td>2,512</td> <td>1,736</td> <td>10,349</td> </tr> </tbody> </table>	項目	H28	H29	H30	R1	R2	R3	計	件数(件)	67	66	67	75	74	64	413	金額(千円)	53,502	65,333	46,404	56,603	47,704	36,538	306,084	項目	H28	H29	H30	R1	R2	R3	計	修学支援(千円)	-	-	2,487	1,238	2,200	1,207	7,132	教育研究支援(千円)	-	-	1,300	1,076	312	529	3,217	計(千円)	-	-	3,787	2,314	2,512	1,736	10,349
項目	H28	H29	H30	R1	R2	R3	計																																																							
件数(件)	67	66	67	75	74	64	413																																																							
金額(千円)	53,502	65,333	46,404	56,603	47,704	36,538	306,084																																																							
項目	H28	H29	H30	R1	R2	R3	計																																																							
修学支援(千円)	-	-	2,487	1,238	2,200	1,207	7,132																																																							
教育研究支援(千円)	-	-	1,300	1,076	312	529	3,217																																																							
計(千円)	-	-	3,787	2,314	2,512	1,736	10,349																																																							

## 検証後の集計結果（公立大学法人静岡文化芸術大学）

	評価対象 項目数	評価委員会検証				法人自己評価				
		A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る	
教育 研究 等	1 教育	46	2	43	1	0	2	42	0	0
	2 学生支援	19	3	16	0	0	3	16	0	0
	3 研究	11	0	11	0	0	0	11	0	0
	4 地域貢献	11	0	11	0	0	0	11	0	0
	5 グローバル化	9	2	7	0	0	1	8	0	0
	合計	96	7 (7.3%)	88 (91.7%)	1 (1.0%)	0	6 (6.3%)	90 (93.7%)	0	0
法人 経営	1 業務運営	18	0	18	0	0	0	18	0	0
	2 財務内容改善	6	0	6	0	0	0	6	0	0
	合計	24	0	24 (100%)	0	0	0	24 (100%)	0	0
自己 点検	1 自己点検・評価	1	0	1	0	0	0	1	0	0
	2 情報公開・広報充実	5	0	5	0	0	0	5	0	0
	合計	6	0	6 (100%)	0	0	0	6 (100%)	0	0
そ の 他	1 施設・設備	3	0	3	0	0	0	3	0	0
	2 安全管理・防災対策	9	0	9	0	0	0	9	0	0
	3 人権尊重・社会的責任	4	0	3	1	0	0	4	0	0
	合計	16	0	15 (93.7%)	1 (6.3%)	0	0	16 (100%)	0	0
総合計		142	7 (4.9%)	133 (93.7%)	2 (1.4%)	0	6 (4.2%)	136 (95.8%)	0	0